

阿佐ヶ谷 再開発 問題は明らかに

区の「まちづくりだより NO. 8」Q & A を批判する

阿佐ヶ谷地域のみなさん。すべての区民のみなさん。

田中区政は、区議選の直前になって「阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりだより NO.8」を発行し、阿佐ヶ谷の各戸に配布しています（区のホームページにも掲載）。

その中の「Q & A」は、明らかに、このかんの「ほら

ぐちともこ通信号外」での再開発批判、地元住民を先頭とする呼びかけで始まった「再開発白紙撤回署名運動」を意識して出されています。しかし、「反論」するつもりで出しながら、すべて私たちの批判を認めてしまっています。やはり、再開発は白紙撤回以外にありません。

1 結局は高層商業施設を建設する

「杉並第一小学校の跡地には、高層の商業ビルができるのか」というのは、地域の街のかたちを変えてしまう問題であり、多くの人が反対し、不安に感じていることです。

しかし、Q & Aは、これを否定せず、「建物の高さも含めて未定」とのみ回答しています。これは実際には高層商業ビル建設計画が進んでいることを示すものです。

「再開発は撤回を！」の声の広がりには押され、区議選前に区が発行した「阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりだより NO.8」



阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくり計画の策定にあたって頂いたご意見のうち、皆様のご関心が高い項目について、Q&A 形式でご説明致します。

Q.北東地区のまちづくりを進める目的を教えてください。

総合病院や小学校の移転改築をきっかけに、区が地権者の一人として参画する「土地区画整理事業」という方法を使い、区・地権者・病院運営法人が、それぞれ土地を提供し、道路の拡幅等を行い、現在より広い学校敷地を確保することで、教育環境の向上と災害時のオープンスペースが創出でき、震災時の地域の防災性向上につながります。

加えて、にぎわい・文化・交流・教育・医療など多様なまちの機能を高めるとともに、病院移転用地であるいわゆる「けやき屋敷」のみどりをできるだけ保全することや、杉並第一小学校跡地等を活用した、にぎわいの拠点づくり、商店街の回遊性の向上など総合的・一体的なまちづくりに取り組みます。

Q.まちづくりが進んでいることを知りませんでした。これまでどのような形で地域に案内をしたのでしょうか。

まちづくり計画の策定にあたっては、北東地区にお住まいの方や土地所有者などの利害関係を有する方を対象に、平成 29 年 11 月から意見交換会やオープンハウス等（延べ 13 回）を開催し、ご意見を伺ってまいりました。

その上で、まちづくり計画案への意見募集については、北東地区内への「まちづくりだより」の各戸配布等に加えて、区ホームページにも掲載し、広くご案内しました。

Q.病院の移転改築によって、いわゆる「けやき屋敷」の屋敷林などのみどりが無くなってしまおうのでしょうか。

「けやき屋敷」の屋敷林は、「地域のシンボル」として、これまで地権者の方のご努力とご負担により維持されてきました。そして、今回の総合病院の移転改築にあたり、平成 29 年 6 月に区・地権者・病院運営法人の 3 者で締結した協定（※）においても、私有地であるけやき屋敷のみどりや景観の保全に配慮する方針を明確に位置付けています。

区としても、けやき屋敷の屋敷林の保全は重要な課題と考えています。地区計画制度の活用や容積率の緩和等により、将来にわたって可能な限りみどりを保全することとしています。

Q.杉並第一小学校の跡地には、高層の商業施設ができるのでしょうか。

小学校跡地の活用については、施設の建設が平成 41 年度（2029 年度）以降になることを想定しているため、建物の高さを含めて、どのような施設とするのか、具体的な整備方針は未定です。

今後、他の地権者や地域の皆さん等のご意見を十分に伺いながら、産業の振興や駅周辺の商店街の活性化にもつながるような、施設整備を検討していきます。



Q.小学校が移転する現在の総合病院の敷地については、病院の跡地であることが心配です。

杉並第一小学校の移転用地については、総合病院の跡地であることを踏まえ、平成 30 年 11 月に区・地権者・病院運営法人の 3 者で締結した協定等（※）において、病院運営法人が、土壌汚染対策法等の法令に基づいて、全て自己の負担で必要な調査や対策を実施するものとしています。

区としても、今後、まちづくりの進捗に合わせ、病院運営法人が行う調査などをしっかりと確認し、地域の方々に情報提供を行ってまいります。



Q.阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりの長期的なスケジュールはどうなっているのでしょうか？

平成 29 年 5 月に策定した「杉並第一小学校等施設整備等方針」（※）では、平成 44 年度（2032 年度）までの長期にわたるスケジュールを想定しています。

現在は、地区計画などまちづくりのルールの検討に着手したところです。

今後、地区計画等の策定を踏まえ、区の道路事業などによる道路拡幅整備等の実施、道路事業等とあわせて順次行われる総合病院や小学校の移転改築を経て、杉並第一小学校跡地の活用の検討や施設の整備を進めてまいります。

（※）「杉並第一小学校等施設整備等方針」や区・地権者・病院運営法人の 3 者で締結した協定については、杉並区公式ホームページでご覧いただけます。

検索方法：トップページ ＞ くらしのガイド ＞ 区の運営に関する情報 ＞ 区立施設の再編整備 ＞ 杉並第一小学校等の整備

2 病院跡地の危険は除去されない

Q & Aでは「小学校が移転する現在の総合病院の敷地については、病院の跡地であることが心配です」という、保護者や教職員、住民からあがっている不安の声に対しても、まったく答えていません。

区は「昨年 11 月に区・地権者・病院運営法人の 3 者で締結した協定等において、病院運営法人（河北病院）が、土壤汚染対策法等の法令に基づいて、すべて自己の負担で

必要な調査や対策を実施するものとしている」、というのみ。これは医療廃棄物などによる土壤汚染の危険除去について、河北病院に丸投げするということです。区は責任をとらないと言っているに等しい。「必要な調査や対策の実施」が、具体的にどのようなものかわかりません。

「3 者の協定」（談合）にまかせていたら築地市場の豊洲移転の過程で起きたことが繰り返されるの明白です。

3 まちづくりの第一目的は金もうけ

Q & A の冒頭には、「北東地区のまちづくりを進める目的を教えてください」とあります。これに対して、区はまず「地域の防災性向上」をあげています。しかし最大の目的は次の、「加えてにぎわい・文化・交流・教育・医療など多様なまちの機能を高める」にあります。これは JR が中心になって東京・全国各地で進めている駅前再開発のうたい文句と同じです。駅を中心に人とカネを集める、要するに、金もうけが第一の目的なのです。

阿佐ヶ谷駅北口からすぐの中杉通りに面した「一等地」を小学校にしておくのはもったないない、こんな発想から出ているのです。目的が「金もうけ」だからこそ、子どもたちの安全を軽視して、危険な病院跡地に小学校を移転させようとしたり、児童館を廃止したり、学校の跡地に高層商業ビルを建てるなどという、「計画」が出てくるのです。また、金もうけを優先した病院移転計画では、地域住民が望む安全で安心な医療も実現できません。

4 住民無視し区民の財産を私物化

Q & A には「まちづくりが進んでいることを知りませんでした。これまでどのような形で地域に案内をしたのか」という質問もあります。これは区自身が、住民を無視して再開発計画を進めてきたことを認めたに等しい。

区と利権関係者との密室協議で策定された再開発計画を、あの手この手で住民にのませようというのが田中区政

です。一部企業と結託し、税金や区民の共有財産を私物化する——これは安倍政権の森友・加計と同じ構図です。許せません！ 再開発撤回署名やビラを自分でコピーして広げている方も現れています。署名を広げ、区議選では再開発絶対反対の候補を当選させましょう。ほらぐちともこは、利権と再開発の田中区政とたたかい抜きます！

区議選で 絶対反対の候補 当選させ、再開発とめよう



ほらぐちともこ通信・号外

洞口 朋子

〈荻窪事務所〉〒167-0032 杉並区天沼 2-3-7 さかいビル 2A tel.fax.03-3329-8813

〈西荻事務所〉〒167-0054 杉並区松庵 3-39-10 メイゾンオーク 1 階 info@horaguchitomoko.jp @HoraguchiTomoko

2019 年 4 月 12 日

